

# NPO法人ブックパートナー通信

# こんにちはBPPです

-NPO法人ブックパートナー通信-  
 第 11 号  
 発行日 平成25年 5月 1日  
 発行所 NPO法人ブックパートナー  
 蒲郡市中央本町13-1



文部科学省はこのほど、「平成25年度子ども読書活動優秀実践図書館」として、蒲郡市立図書館に「文部科学大臣賞」を授与すると伝えてきました。

蒲郡市立図書館は、平成21年度から指定管理者制度が導入され、NPO法人ブックパートナーが管理運営を行ってきています。

運営を任されて以降も、子ども達の読書を推進する活動に力を入れ、「児童サービスの充実」

平成25年度子ども読書活動  
 優秀実践図書館として

文部科学大臣賞を受賞

「読み聞かせボランティアとの連携」「読み聞かせボランティア・学校図書館ボランティアの育成」「ブックスタート事業の推進」「学校図書館支援事業の実施」などといった、サービスの充実を図ってきたところで、というわけで、文部科学省に



これらの活動が、「子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動について優れた実践をおこなっている」として認められ、今回の受賞となったものです。

なお授賞式は、4月23日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターホールで行われました。

## NPO法人ブックパートナー

### 新監事に中野さんを選出

### 2月28日臨時総会を開催

去る2月28日、NPO法人ブックパートナーは臨時総会を開き、前任者の急逝により空席になっていた監事の後任を決める議案を提出し、慎重審議の結果、中野房子さんを満場一致で可決選出しました。

新しく選出された中野さんは、生粋の蒲郡っ子で、現在、会社

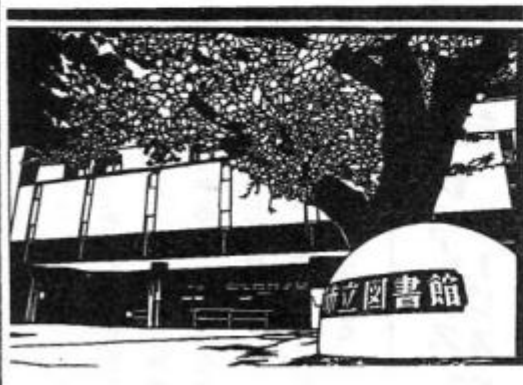
経営者として腕を振るっています。かつて、蒲郡市議会議員として活躍され、議長を務めるなど、蒲郡市政に貢献された方でもあります。

中野さんは就任にあたって、「本との関わりを大切に、熱心に働んでいる皆さんと一緒に歩むことができること、大変うれ

しいですね。微力ですが、さまざまな活動を展開するNPOの活動に役立つことができれば幸いです。」と語ってくれました。

記 事  
 国立国会図書館から  
 礼状が届く・・・2頁  
 レファレンスサービス研修  
 公開講座の内容は・・・3頁  
 科学館「出前おはなしライブ」  
 子ども達、参加しやすく・・・6頁

NPO法人ブックパートナー  
 平成25年度通常総会のご案内  
 ・とき 5月20日(月)  
 ・ところ 午前10時  
 市立図書館別館  
 ・議題 平成24年度事業報告と  
 平成25年度事業計画他



# 国立国会図書館から

## 「礼状が届く!!」

### レファレンス協同データベース事業に貢献ーと

去る3月18日、国立国会図書館から蒲郡市立図書館に「レファレンス協同データベース事業に関する礼状」が届きました。レファレンスサービスとは、図書館の主要なサービスのひとつで、利用者の調べごとの相談に応じ、解決のための援助をするというものです。

このレファレンスサービス、公共図書館同士が協力しあうこ

とにより、一層の充実をめざそうと、平成17年12月から国立国会図書館が全国の公共図書館に呼びかけ、互いに持っている調べ物に対する相談事例（回答を含めた）を共有できるようにデータベース化して活用を図るという事業です。

平成21年4月にNPO法人ブックパートナーが、蒲郡市立図書館の指定管理者になったことから、従来の図書館運営に加えて、レファレンスワークにも重点を置いた運営を打ち出し、データベース化に積極的に応じ、関わってきました。

平成17年12月に、国会図書館のリードでスタートした際の登録データ総数、約1万7千件であったものが、7年を経た24年12月になり、この総数が10万件

### 時の話題

#### （童謡の人） 歌見誠一さん

今年、新美南吉生誕百年、半田市を中心にあちこちで顕彰行事が目白押しといわれる。蒲郡にも新美南吉にゆかりの深い歌見誠一がいる。鈴木三重

吉の創刊した「赤い鳥」に新美と親い合うようにして童謡を寄稿したりし、北原白秋に認められた人でもある。新美南吉と親交の厚かった歌見誠一、互いに影響しあった人物として、忘れてはならない存在である。

愛知図書館協会「レファレンス研修」  
先達の事例発表  
蒲郡市立図書館

これに先立ち、昨年の11月15日、愛知図書館協会が県内の

図書館職員を集めて開催した公開講座「レファレンスサービス研修」には、当館の取り組みが先進的であることから、国会図書館の講義に加えて、県図書館とともに事例発表を行いました。

この事例発表の内容につきましては、このほど発行された愛知図書館協会会報第一九〇号に掲載されました。ここに掲載いたしますので、ぜひお読み下さい。



### 写真展

## レファレンスサービスのあま風景展

### ー国会図書館を飾るー

このデータベース化を推進する国立国会図書館レファレンス協同データベース事業事務局では啓発のため、初の試みとして国会図書館内で「写真展・レファレンスサービスのある風景」を開催しました。全国から応募の13館35点の作品が展示され、「展示期間中は、熱心に見入

っている方が大変多く、また作品をカメラに収める方もたくさんいらつしゃいました。」といった報告を事業事務局からいただきました。

出展した蒲郡市立図書館のブースをみると、ひときわ目立つ中央部にあり、横浜市中央図書館と京都府立図書館・京都府立総合資料館、日本原子力研究開発機構図書館に囲まれる力タチでの展示となっていました。



## レファレンスサービス研修 公開講座から 貴重な財産を共有するために

蒲郡市立図書館 一般カウンター主任 三浦佳穂

レファレンスサービス研修は、4回の連続講座の中の1回を公開講座としている。今年度は平成24年11月15日、国立国会図書館レファレンス協同データベース（レファ協）をテーマに開催、88名の参加者があった。国会図書館の講義に加えて蒲郡市立図書館と愛知県図書館の活用事例発表も合わせて行ったのが好評だった。今号では蒲郡市立図書館に自館のレファレンスサービスについて改めてご紹介いただく。

平成21年度より指定管理者制度の採用によりNPO法人ブックパートナーが管理運営を行っている。力を入れていることのひとつが、レファレンスサービスだ。市の直営のころはなかったレファレンスカウンターを新設し、司書資格を保有する職員を常駐し、利用者の質問にすぐに対応できるようにしている。

また、レファレンスサービスとはどんなものか、図書館だよりやホームページ、市の広報などで紹介している。調査件数は平成21年度は1,132件、平成22年度は1,144件、平成23年度は1,328件と年々増えている。少しずつ浸透してきたのか、簡易なものから困難なものまで、さまざまなジャンルの質問が多くなった。



レファレンスカウンター

レファレンスサービスを行うにあたり、全体のサービスの向上はもちろん、担当する職員個人のスキルを上げることが課題となった。新入職員たちは、資料はあるのに、その資料を捜すスキルが十分ではなかった。特に郷土資料に関しては、担当に一任し、どんな資料があるのかもよく知らない状況だった。

レファレンスで受ける質問は同じようなものが多

く、記録を残し、それを見ることで時間が短縮できると考えたが、記録は手書きのため探し出すのに時間がかかり、ほとんど使われていなかった。

そこでレファ協のデータベースを活用することになった。職員全員で過去の記録をエクセルに入力する作業を行った。記録の書式が統一されていないことや、掲載ページが載っていないことなど、たくさんの課題が見つかった。今では職員研修も兼ねて、入力するだけでなく、書式の統一と、再調査も同時に行うようにしている。現在、記録は直接エクセルに入力しているため、レファ協にすぐに登録できるようになった。

レファ協への登録までの流れだが、カウンターで質問を受け、回答を出す。その回答をエクセルに入力。ここまでは対応した職員が行う。その後レファ協の担当者が入力した記録の不備がないかチェックし、登録する。担当者がチェックを行っているが、あとから間違いがみつかることや、不明だった回答が見つかることもあるので、その都度直している。回答をそのまま記録しているのではなく、事例として分かりやすく直し登録している。

ネットで調べた情報は入力する段階で、参考図書などで再調査をする。ネットで見つけた回答をそのまま載せることはせず、参考にした上で、ほかの資料を探す。できる限りネットは使わず、資料で回答を見つけるという目標でやっている。回答の信用度と、参考図書の使い方を実際に利用者に見せることが重要と考えている。デジタル社会の現在、ネットの利点を上手に活用する方法を探ることも課題の一つである。

レファ協は便利なツールである。回答であり、ヒントであり、何かを見つけることができる。職員研修にも使え、自館のサービスへの姿勢を見直すきっかけにもなり、いくつかの改善すべき点が見つかる。

多くの図書館が手書きの記録を残していることと思う。レファレンス記録は図書館の財産とも呼べる貴重な記録だ。その記録を整理し、レファ協に登録すれば、自館のみならず、多くの参加館の有益な資料として閲覧される。大変な作業だが、そこに多くの可能性があることを知ってほしい。

# 生命の海科学館

## 「出前」 「よはなしライブ」

時間変更で...  
子ども達  
参加しやすく

毎月、第四土曜日の午後1時  
20分から30分間、情報ネットワ  
ークセンター生命の海科学館  
で開かれている、当ブックパー  
トナーの「出前・おはなしライ

ブ」が徐々に定着をみせはじめ  
ていて嬉しいですね。

というのも、昨年まで、開始  
時間が3時30分からとなってい  
たものを、主催者である科学館  
の計らいにより、1時20分開始。  
と大幅に変更になったことから  
この変更がお客さんに浸透する  
までには、相当時間がかかるので  
はないかと思っていたからです。  
子ども達が参加する講座が多  
い科学館です。この子達を「お  
はなしライブ」に迎え入れるに  
ふさわしい時間帯を提供したい  
という科学館側の配慮による今

回の変更でしたから、科学館が  
子ども達に対する呼びかけを特  
別に強化した結果が、功を奏し  
たものといえましょう。

ちなみに、4月27日に開かれ  
た「おはなしライブ」には、子  
ども達が16人、大人14人の合計  
30人の参加があり、熱心に聴い  
て下さいました。



規模を縮小した支援にとどまっ  
ていました。

創出事業「予算を得て、「図書館  
支援事業」をブックパートナー  
に委託。これを受託した私達が、  
事業を実行してきたところです。  
しかし、この事業は、残念な  
がら一年間で終了したため、24  
年度は、法人独自の事業として

こうした現状を踏まえ、蒲郡  
市教育委員会は、さらに継続し  
て推進する必要があるとして、  
25年度にも学校図書館の支援事  
業をすすめるようと、あらためて

“国の緊急雇用創出事業” 予算  
を確保、当ブックパートナーに  
委託し、実施することを決めま  
した。学校図書館支援に実績を  
積みできたブックパートナーの  
出番です。

教育委員会から受託する25年  
度支援事業の業務内容は、「学校  
図書館の環境整備、書架整理、  
図書整理、図書の修理、図書館  
利用教育、調べ学習の援助、フ  
ックトーク」等々で、やるべき  
ことはいっぱいあります。  
子ども達が一層、利用したく  
なる図書館づくり、こうした一  
連の業務を推進し、小中学校図  
書館の活用促進をすすめていけ  
ば、必ず子ども達の読書力は  
高まるものと思います。

演じるメンバーは科学館の配  
慮に應えるため、いっそう魅力  
あるものにしてようと張り切っ  
ています。ぜひ皆さん、まわりの  
人達にも知らせていただき、科  
学館に足を運んでみてはいかが  
でしょうか。

**お知らせ**  
皆様からいただいた会費で  
iPadを購入。図書館で利  
用していただいています。  
カタログBooks「竹島俊  
成さん」をはじめ電子書籍  
(青空文庫より)がご覧い  
だけます。ぜひご利用を

### 25年度も 「教育委員会から受託」

「緊急雇用創出事業」で  
学校図書館支援事業  
すすめることに

NPO法人ブックパートナー  
は設立以来、市内の20小中学校  
に出向き、学校図書館の支援を  
すすめてきています。その中、  
平成23年度には、蒲郡市教育委  
員会が、私たちの事業を後押し  
するかの「しん」国の緊急雇用



## 会員募集中

# BP NPO法人 ブックパートナー

私たちの活動に賛同して下さる 会員を募集しています。

気軽にお問い合わせください。

☎443-0057 蒲郡市中央本町13-1 ☎090-3952-7680  
携帯 [E-mail:book\_patner@softbank.ne.jp]  
PC [E-mail:gamagoori\_book\_patner@yahoo.co.jp]